

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 100人

② 数学 99人

5 留意事項

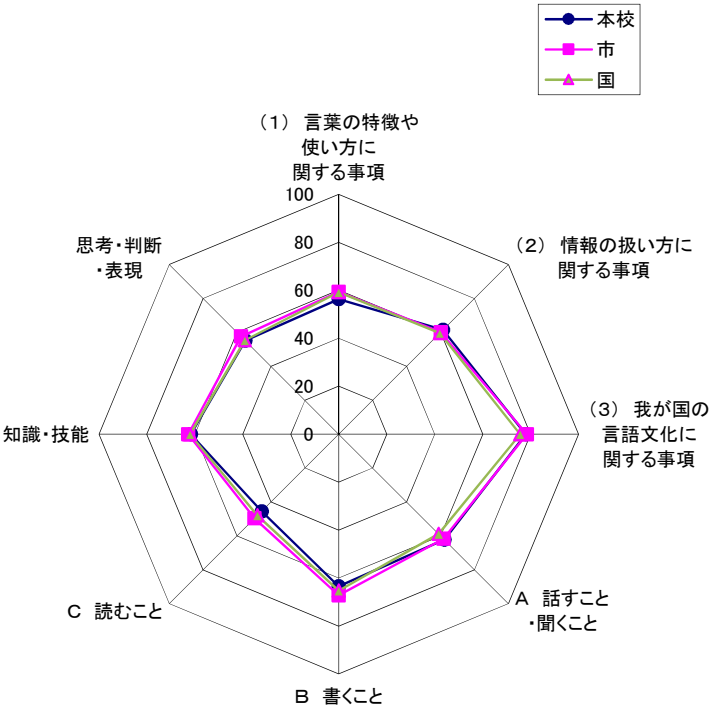
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	56.3	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	61.5	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.0	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	62.3	61.8	58.8
	B 書くこと	63.5	67.2	65.3
	C 読むこと	45.5	49.7	47.9
観点	知識・技能	61.7	62.7	62.0
	思考・判断・表現	55.1	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

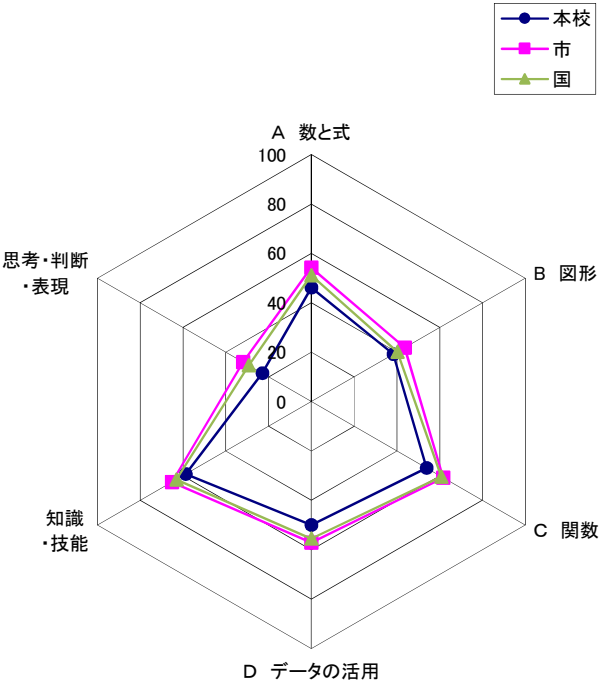
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	正答率は、市平均を3.0ポイント、全国平均を2.9ポイント下回った。 ○漢字の書き取りでは、全国平均を上回り、無解答率は市・全国より低かった。 ●文法事項や表現技法などの知識を問う問題では、市平均・全国平均を下回った。	・漢字については、既習漢字についても折に触れて話題にし、正確に書けるように授業で取り上げていく。 ・文法事項や表現技法などの知識について、関連する用語の理解が十分でないため、意図的に復習を行う機会を増やしたり、Aドリルを活用したりしながら知識の定着を図っていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	正答率は、市平均を1.5ポイント、全国平均を1.9ポイント上回った。 ○意見と根拠の関連を理解しているかどうかを見る問題で、市平均・全国平均を5ポイント程度上回った。 ●具体と抽象などについて理解しているかどうかを見る問題では市平均・全国平均を下回った。	・作文学習の繰り返しにより、意見を書いたり根拠を明確にしたる習慣が身に付いてきた。読解においても活かされたと考えられるため、今後も作文指導を継続して行っていく。 ・具体と抽象については、具体例と一般化との学習を中心に、理解を確かなものにできるよう指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を0.4ポイント下回り、全国平均を2.4ポイント上回った。 ○行書の特徴を理解しているかどうかの問題で、全国平均を上回った。また、無解答率は0であった。 ●行書の特徴を理解しているかどうかの問題で、市平均を0.4ポイント下回った。	・行書の特徴をふまえた書き方については、書写(毛筆)の学習において体験的に学習する活動に重きを置いて学習するようにし、知識はもちろん実践を通して、理解をより確かなものにできるよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を0.5ポイント、全国平均を3.8ポイント上回った。 ○他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる問題で、市平均・全国平均を上回った。 ●話の内容を聞きとる、わかりやすく伝えることに関する問題では市平均・全国平均を下回った。	・作文学習の繰り返しにより、自分の考えをまとめる学習に慣れてきた。記述の問題においても活かされたと考えられるため、今後も作文指導を継続して行う。 ・話の内容を聞き取ることや、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことについては、授業における話し合いや発表の場面を意図的に増やし、繰り返し取り組むことで向上を図る。
B 書くこと	正答率は、市平均を3.7ポイント、全国平均を1.8ポイント下回った。 ○集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする問題では、無解答者がいなかった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題で市平均・全国平均を下回った。	・物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものを選択するという問題と、物語の最後の場面の工夫について考えるという新しい傾向の出題であった。新しい傾向の出題においても学習したことが生かされるよう、授業において練習問題に取り組んだり、Aドリルを活用したりしながら、様々な問題に取り組む機会を増やしていく。
C 読むこと	正答率は、市平均を4.2ポイント、全国平均を2.4ポイント下回った。 ○短歌の内容について描写を基にとらえる問題では市平均・全国平均を上回った。 ●具体例と主張との関連や、本文を理解して要約する問題で、市平均を最大8.3ポイント下回る問題があった。	・短歌の内容に関する問題については、調査前の授業と関連性が高かったことが要因と考えられる。今後とも重要事項の反復練習を意図的に授業に取り入れていく。 ・具体例と主張を関連付け、段落相互のつながりを整理したり、目的や事実を明らかにして条件に応じた表現で文章にまとめたりできるよう指導していく。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	46.1	54.2	51.1
	B 図形	38.4	43.6	40.3
	C 関数	53.8	61.7	60.7
	D データの活用	50.0	57.1	55.5
観点	知識・技能	58.7	65.2	63.1
	思考・判断・表現	23.0	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、市平均を8.1ポイント、全国平均を5.0ポイント下回った。 ○連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す問題は、全国平均を上回った。 ●等式を変形し、yについて解く問題は、県平均を下回った。	・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題を解く学習に繰り返し取り組ませる。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるよう指導していく。 ・統計的、発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力を育てる。
B 図形	正答率は、市平均を5.2ポイント、全国平均を1.9ポイント下回った。 ○筋道を立てて合同の証明をする問題は、全国平均と同程度であった。 ●回転移動の理解を問う問題は、県平均を下回った。	・角の大きさに注目して観察し、問題解決の過程や結果から、新たな性質を見いだすことができるよう、指導を工夫する。 ・合同の証明について、必要な図形の性質を読み取り、それを言語化して表現する力を育てる。 ・空間図形に関する基礎的な知識を確認し、面積や体積を求めることができるよう指導していく。
C 関数	正答率は、市平均を7.9ポイント、全国平均を6.9ポイント下回った。 ●一次関数の式とグラフを関連付けて理解しているか問う問題は、県の平均を下回った。 ●グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する問題は、県平均を下回った。	・身の回りに起こる事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を関数の考え方をを用いて説明する力を育てる。 ・2つのグラフにおけるy軸との交点の座標が表すものが、身の回りの事象に即して解釈することができるよう指導を工夫する。 ・関数の式、表、グラフの関連性を基礎的な知識から確認し、表やグラフから式を求めることができるよう指導していく。
D データの活用	正答率は、市平均を7.1ポイント、全国平均を5.5ポイント下回った。 ○与えられたデータから最頻値を求める問題は、全国平均と同程度であった。 ●2枚の硬貨を同時に投げる場合について、確率を求める問題は、県平均を下回った。	・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるよう、様々な問題を解く場を設けていく。 ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるよう指導していく。 ・データの分析における基本的な用語とその意味を確認し、知識を問う問題が解けるよう指導を工夫する。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は98.2%で、「当てはまる」との項目でも、県平均よりも約19ポイント、全国平均よりも28ポイント上回っており、日常の教師との様々な場面での人間関係が良好である。今後も、認め、励まし、寄り添える関係づくりに努力し、100%を目指して取り組んでいきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は98.1%で、県平均・全国平均よりも上回っている。校内でも生徒会の「いじめ撲滅運動」をはじめ、学年、学級他の場面でも「いじめは許されない」と常々意識して取り組み、生徒の話し合い活動を生かした活動の成果が表れている。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は85.0%で、県平均よりも約15ポイント、全国平均よりも約23ポイント上回っており、国語の大切さを多くの生徒が理解している。また「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出ときに役立つと思いますか」の質問に対しても県平均や全国平均よりも高く、国語の学習に対して意欲的に捉え、実際に取り組んでいる。今後も読書や作文、その他様々な学習を通して実際の学力を高めていきたい。

●「2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は9.3%で、県平均より約16ポイント、全国平均より約20ポイント下回っている。今年度は様々な教科での活用が進んでおり、実際の使用頻度は高くなっている。今後も教師側の研修をはじめ、授業での効果的な使用について努力していく。

宇都宮市立宝木中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)『わかる授業』の推進	①生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	肯定的回答は9割を超えているものの、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、県平均を4.1ポイント、全国平均を8.2ポイント、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」では県平均を8.1ポイント下回っている。教師が発問を工夫するとともに、生徒が話し合い活動を通して「主体的で深い学び」ができるよう、指導の充実にも努めていく。
	②「振り返り」活動の徹底	「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答は72.9ポイントで、全国平均を5.0ポイント、県平均を7.2ポイント下回っている。生徒が学びの過程や変容を確認する場として、「振り返り」活動をこれまでより意識的に行っていく。
(2)家庭学習のより一層の充実	・自主学習ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛 ・家庭学習の充実	「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しましたか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」で「2時間以上」と回答した生徒は、全国平均・県平均とほぼ同程度である。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、「3時間以上」の回答をした生徒は14.0ポイントで、全国平均を1.5ポイント、県平均を3.1ポイント下回っている。これを、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した生徒まで広げると43.9ポイントで、全国平均を7.7ポイント、県平均を1.6ポイント上回っている。家庭での学習習慣や主体的に学習に取り組む態度が身に付いてきた生徒が増えており、学びに向かう力が育ってきた。今後は、自分の希望する進路実現に向けて充実した家庭学習となるよう、質の面も踏まえて指導を継続していく。